

1.	①	11.	①	21.	①	31.	②	41.	①
2.	②	12.	③	22.	②	32.	②	42.	②
3.	②	13.	④	23.	③	33.	③	43.	①
4.	①	14.	②	24.	④	34.	③	44.	④
5.	①	15.	④	25.	②	35.	②	45.	①
6.	③	16.	③	26.	①	36.	③	46.	④
7.	③	17.	①	27.	①	37.	③	47.	①
8.	②	18.	③	28.	②	38.	③	48.	②
9.	④	19.	②	29.	②	39.	②	49.	④
10.	①	20.	①	30.	②	40.	②	50.	①

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「(特定の) 時、機会、行事」です。`occasion`は、単なる「時(`time`)」ではなく、何か特別な出来事が起こる「時、場合」や、結婚式や祝賀会といった「特別な行事、儀式」を指す名詞です。`I have only met him on one occasion.`（私は彼に一度しか会ったことがない）。`It was a special occasion for the whole family.`（それは家族全員にとって特別な行事だった）。②「意見」は`opinion`、③「職業」は`occupation`、④「操作」は`operation`です。

◆補足：`on occasion`または`on occasions`で「時々、時折」という意味の熟語になります。これは`sometimes`や`occasionally`（副詞）とほぼ同じ意味です。コロケーションとしては、`a formal occasion`（正式な行事）や`on this occasion`（この機会に）などがあります。

2.

解答 ②

【解説】

正解は②の『drop by』です。この熟語は、「(～に) ひょいと立ち寄る、ちょっと寄る」という意味で使われます。特に前もって約束をせずに、どこかへ行くついでに短い時間だけ訪れる、というカジュアルなニュアンスがあります。この文では、帰り道にオフィスに「立ち寄る」ことを伝えているので、この表現がぴったりです。他の選択肢も見てみましょう。①の『pass through』は「～を通り抜ける」という意味で、中には入らず通過するイメージです。③の『go around』は「～の周りを回る、迂回する」。④の『stop at』は「～で止まる」ですが、「立ち寄る」という軽いニュアンスは『drop by』の方が強いです。

◆補足：『drop by (場所)』の形で使われることが多いです。次の問題に出てくる『drop in』も、ほとんど同じ意味で使うことができ、置き換えが可能です。どちらも便利な表現なので、ぜひ覚えて使ってみてください。例文: "Please feel free to drop by anytime." (いつでも気軽に立ち寄ってくださいね。)

3.

解答 ②

【解説】

正解は②の`another`で、「もう一つの、別の」という意味です。`an + other`が一つになった単語で、すでにあるものに加えて、不特定の「もう一つ」を指します。後ろには単数形の名詞が続きます。

`This piece of cake was delicious. Can I have another?' (このケーキは美味しかった。もう一つもらえますか?)。他の選択肢は、①`other`が「他の」、③`the other`が二つあるうちの「もう一方」、④`each other`が「お互い」という意味です。

◆補足：`another`の使い方は、`other`や`the other`との比較で理解することが重要です。`another`は「不特定多数の中の、どれでもいいからもう一つ」というニュアンスです。`I need another three days to finish this.` (これを終えるのにもう3日必要だ)のように、`another + 数字 + 複数名詞`の形も可能です。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①の「専門用語」です。『term』は、意味がたくさんある多義語として知られていますが、英検準2級レベルでは、まず二つの重要な意味を覚えておくことが大切です。一つは「学期」です。日本の多くの学校は3学期制(three terms)ですね。そしてもう一つが、この問題の正解である「(専門)用語」です。例えば、"medical term"は「医療用語」、"technical term"は「技術用語」を意味します。文脈によってどちらの意味で使われているかを判断する必要があります。②の「簡単な単語」は`easy word`、③の「一般的な意見」は`general opinion`、④の「行事」は`event`となり、いずれも『term』の主要な意味ではありません。多義語は覚えるのが大変ですが、まずは中心となる意味から一つずつ攻略していきましょう。

◆補足：「期間」という意味で"a long-term plan"(長期計画)のように使われたり、「(契約などの)条件」という意味で使われたりすることもあります。このように、文脈に応じて意味を判断する必要がある単語なので、辞書で例文をたくさん確認するのが良い学習法です。

5.

解答 ①

【解説】

正解は①の『butterfly』です。この単語は、その美しい羽で知られる昆虫、「蝶」を指します。"butter" (バター) と "fly" (飛ぶもの) が組み合わさった面白い名前ですね。他の選択肢も、それぞれ特定の昆虫を指す単語です。②の『dragonfly』は「トンボ」です。"dragon" (竜) が付いているのが特徴的です。③の『firefly』は「ホタル」です。"fire" (火) のように光ることからこの名前がついています。④の『ladybug』は「テントウムシ」を指します。これらの昆虫名は、絵本や自然に関する話題でよく登場するので、覚えておくと表現が豊かになります。

◆補足：have butterflies in one's stomach (直訳：お腹の中に蝶がいる) という面白いイディオムがあります。これは、試験の前や大事な発表の前などに感じる「そわそわして落ち着かない、緊張する」という気持ちを表す、非常によく使われる表現です。例文: "We saw a beautiful blue butterfly in the garden." (私たちは庭で美しい青い蝶を見ました。)

6.

解答 ③

【解説】

正解は③「自然に、生まれつき、当然」です。`naturally`は副詞で、人の手を加えずに物事がそのようになる様子や、当然の帰結としてそうなることを表します。`She is naturally talented at music.` (彼女は生まれつき音楽の才能がある)。`He worked hard, so naturally, he passed the exam.` (彼は一生懸命勉強した。だから当然、試験に合格した)。①「全国的に」は`nationally`、②「中立的に」は`neutrally`、④「神経質に」は`nervously`です。

◆補足：`naturally`は、形容詞`natural` (自然の) に`-ly`を付けて作られた副詞です。`nature` (自然) → `natural` (自然な) → `naturally` (自然に) という単語のファミリーを意識すると良いでしょう。

7.

解答 ③

【解説】

正解は③「～しそうにない」です。`be unlikely to do`は、「～する見込みが低い、～するとは思えない」という意味です。`likely` (ありそうな) に否定の接頭辞`un-`が付いており、物事が起こる可能性が低いことを示します。`The team is unlikely to win the championship this year.` (そのチームが今年、選手権で優勝する見込みは低い)。①「～しそうである」は`be likely to do`で、対義表現です。②「～することができない」は`be unable to do`、④「～することになっている」は`be supposed to do`です。

◆補足：`It is unlikely that ...`という形で「…ということはあるにない」と表現することもできます。`It is unlikely that he will arrive on time.` (彼が時間通りに到着する見込みは低い)。

8.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～より下に」です。前置詞または副詞として使われる『below』は、ある基準点や位置よりも「下に、下の方に」という場所やレベルを示します。前の問題の 'under' と似ていますが、

『below』は必ずしも真下にあるとは限らず、単に「より低い位置」を指す、より広い意味で使われることが多いです。また、温度や平均点など、抽象的なレベルが「～未満で、～以下で」と言う際にもよく使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる位置関係を表します。①「～の間に」は 'between' や 'among'。③「～を越えて」は 'over' や 'beyond'。④「～の向こうに」は 'beyond' や 'on the other side of' です。

◆補足：'under' と 'below' の使い分けは少し難しいですが、一般的に、'under' が何かに覆われて「真下」にある状態を指すことが多いのに対し、'below' は単に垂直方向の位置関係として「より低い」ことを示します。例文: "Please do not write below this line." (この線の下には書かないでください。) "The temperature dropped below zero last night." (昨夜、気温は氷点下に下がった。)

9.

解答 ④

【解説】

正解は④の 'to begin with' で、「まず第一に、手始めに、そもそも」という意味です。話や議論を始めるときに、最初のポイントを導入するのに使われます。'There are several problems. To begin with, we don't have enough money.' (いくつか問題がある。まず第一に、私たちには十分なお金がない)。他の選択肢は、① 'in the beginning' が「最初は（後で変わったが）」、② 'at the beginning' が「～の初めに」、③ 'for a beginner' が「初心者にとっては」という意味です。

◆補足：'to begin with' は 'first of all' とほぼ同じ意味で、置き換えが可能です。文頭に置いて、コンマで区切るのが一般的です。

10.

解答 ①

【解説】

正解は①「不足、欠乏」です。名詞の 'lack' は、必要なものが十分でない状態を指します。'a lack of ~' の形で使われることがほとんどです。'Her failure was due to a lack of experience.' (彼女の失敗は経験不足が原因だった)。②「運」は 'luck'、③「錠」は 'lock'、④「幸運」は 'fortune' がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：'lack' は動詞として「～を欠いている」という意味でも使われます。'He lacks the skills needed for the job.' (彼にはその仕事に必要な技術が欠けている)。名詞と動詞で同じ形なので、文の中での働きに注意しましょう。'shortage' も「不足」を意味しますが、'shortage' は需要に対して供給が足りない状況、'lack' は単に存在しない・不十分な状況を指すことが多いです。

11.

解答 ①

【解説】

正解は①の`tourist`で、「観光客」を意味します。楽しみや休暇のために旅行をする人を指します。

`The city's economy depends heavily on tourists.`（その都市の経済は観光客に大きく依存している）。他の選択肢は、②`traveler`がビジネスなども含む「旅行者」全般、③`visitor`が誰かの家やある場所への「訪問者」、④`stranger`が「見知らぬ人」という意味です。

◆補足：`tourist`は`tour`（観光旅行）に、人を表す接尾辞`-ist`が付いてできた単語です。`a tourist attraction`（観光名所）、`a tourist information center`（観光案内所）などの複合語も重要です。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③「法律の、合法的な」です。`legal`は形容詞で、法律に関連すること、または法律によって認められていることを示します。`It is a legal requirement to wear a seatbelt.`（シートベルトの着用は法的な要件です）。①「地域的な」は`local`や`regional`、②「忠実な」は`loyal`、④「論理的な」は`logical`が適切な単語です。

◆補足：`legal`は名詞の`law`（法律）から派生した言葉です。対義語は、否定を表す接頭辞`il-`を付けた`illegal`（違法な）です。この対義語も非常に重要なのでセットで覚えましょう。コロケーションとしては`legal advice`（法的助言）、`legal system`（法制度）、`take legal action`（法的措置を取る）などがあります。

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の「その土地の」です。『local』は、「地元の、地域の」という意味を持つ形容詞で、話している人がいる場所や、話題になっている特定の地域に関連することを表します。例えば、自分が住んでいる町は "my local area" と言えますし、旅行先でその土地ならではの料理を食べたいなら "local food"（郷土料理）を探すことになります。他の選択肢を見てみましょう。①の『central』は「中央の、中心的な」という意味です。②の『foreign』は「外国の」という意味で、『local』とは逆の概念を指すことが多いです。③の『private』は「私的な、個人の」という意味で、これも文脈に合いません。それぞれの単語が持つ範囲や領域をイメージすることが大切です。

◆補足：『local』は場所だけでなく、人やニュースなどにも使えます。例えば、『local people』（地元の人々）や『local news』（地域のニュース）のように使います。名詞として「地元の人」という意味

で使われることもあります。例文: "It's important to support local businesses." (地元の企業を支援することは重要です。) このように、地域社会との関わりを話す上で欠かせない単語です。

14.

解答 ②

【解説】

正解は②の **work on** ~ です。「～に取り組む」や「～の作業をする」という意味で、宿題やプロジェクト、修理など、特定の課題や仕事に時間と労力をかけていることを表します。①の **work for** ~ は「(会社など)に勤めている」または「(人)のために働く」という意味です。③の **work out** は「(計画などが)うまくいく」や「(体を)鍛える、運動する」など複数の意味を持つ句動詞です。④の **work with** ~ は「～と協力して働く」という意味です。

◆補足: `on` には「～に関して」や「接触」といった意味合いがあり、そこから「～に集中して取り組む」というニュアンスが生まれます。例文: `I need to work on my presentation for next week.` (来週のプレゼンテーションに取り組まなければならない)。

15.

解答 ④

【解説】

「global warming」は、「地球温暖化」を意味する英語表現です。`global` は「地球規模の」、`warming` は「暖かくなること (温暖化)」を意味します。言葉の通り、地球全体の平均気温が上昇する現象を指します。したがって、正解は④です。①「世界経済」は **global economy**、②「国際貿易」は **international trade**、③「自然保護」は **nature conservation** などで表されます。

◆補足: `global warming` の主な原因は、二酸化炭素などの温室効果ガス (**greenhouse gases**) の増加にあるとされています。`fight against global warming` (地球温暖化と闘う) のような形で使われます。例文: `We need to take action to stop global warming.` (私たちは地球温暖化を止めるため行動を起こす必要があります)。

16.

解答 ③

【解説】

正解は③の『**return**』です。この動詞は、「元の場所や状態に『戻る、～を戻す、返す』』という意味を持つ非常に基本的な単語です。図書館から借りた本を元の場所 (図書館) に「返す」という、この問題の状況にぴったりです。また、人が「(家に) 帰る」という意味でも使われます。他の選択肢を見てみましょう。①の『**borrow**』は「(無料で) ～を借りる」という、`return` とは逆の行為です。④の『**keep**』は「～を保つ、持ち続ける」という意味で、これも「返す」とは逆の概念ですね。②の

『lend』は、「(無料で) ～を貸す」という意味です。この 'borrow' (借りる側) と 'lend' (貸す側) の使い分けは非常に重要なので、必ず区別して覚えましょう。これらの基本的な動詞は、日常生活で頻繁に使われるので、意味を正確に理解しておくことが大切です。

◆補足：『return』は名詞として「帰ること、返却」という意味も持ちます。例えば、「往復切符」は "a round-trip ticket" の他に "a return ticket" (主にイギリス英語) とも言います。例文: "You must return these books to the library by next Friday." (あなたは来週の金曜日までに、これらの本を図書館に返さなければなりません。)

17.

解答 ①

【解説】

正解は①の 'scenery' で、「(ある地域全体の自然の) 風景、景色」を意味します。山、湖、海岸線など、広範囲にわたる美しい自然の景観を指す場合に特に使われます。'I was impressed by the magnificent scenery of the Swiss Alps.' (私はスイスアルプスの壮大な風景に感銘を受けた)。他の選択肢は、② 'scene' が映画の「場面」や事件の「現場」など、特定の「光景」を、③ 'view' が窓や丘の上といった特定の地点からの「眺め」を、④ 'sight' が「見ること、視力」や複数形で 'sights' として「名所」を意味します。これらの単語はすべて「景色」と訳せますが、ニュアンスが異なるため、文脈に応じた使い分けが重要です。

◆補足：'scenery' は数えられない名詞 (不可算名詞) として扱われるのが基本です。そのため、'a scenery' や 'sceneries' という形にはなりません。「美しい風景」は 'beautiful scenery'、「壮大な風景」は 'spectacular scenery' のように表現します。

18.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～をじっと見る」です。『touch』は、「～に触る、触れる」という物理的な接触を表すのが最も基本的な意味です。しかし、それ以外にも比喩的な意味を多く持つ重要な多義語です。この問題では、それが持たない意味を選ぶ必要があります。①「～に触る」は中心的な意味です。②「～を感動させる」も、人の心に「触れる」という比喩的な意味で非常によく使われます。"I was touched by his kindness." (私は彼の親切に感動した。) の形は頻出です。④「～に連絡を取る」も、"get in touch with" や "keep in touch with" の形で、「連絡を取り合う」という意味で使われます。一方、③の「～をじっと見る」は、'stare at' や 'gaze at' などの動詞が使われ、『touch』にこの意味はありません。

◆補足：このように、基本的な動詞ほど多くの意味を持つ傾向があります。一つの意味だけでなく、文脈に応じて様々な意味を理解できることが、英語力を向上させる上でとても大切です。例文: "Don't touch the paintings in the museum." (美術館の絵に触らないでください。)

19.

解答 ②

【解説】

正解は②の`make fun of`で、「～をからかう、ばかにする」という意味です。冗談めかして、あるいは悪意を持って、人やその言動を笑いの対象にすることを表します。`You shouldn't make fun of others.`（他人をからかうべきではない）。他の選択肢は、①`make up for`～が「～の埋め合わせをする」、③`make use of`～が「～を利用する」、④`make a fool of`～が「～を笑いものにする、大恥をかかせる」という意味です。`make a fool of`は`make fun of`よりもさらに意地悪なニュアンスを持ちます。

◆補足：`make fun of`は`tease`や`laugh at`と意味が似ていますが、`make fun of`の方が、より子供じみたからかいのニュアンスを持つことがあります。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①「～するのに苦労する」です。`have difficulty (in) doing`は、「～するのが難しい、～するのに困難が伴う」という意味の熟語です。`difficulty`は「難しさ、困難」を意味する名詞です。この構文では、`difficulty`の後に前置詞`in`が省略され、動名詞（-ing 形）が続くのが特徴です。`She had difficulty getting a visa to work abroad.`（彼女は海外で働くためのビザを取得するのに苦労した）。②「～するのが難しい」は`it is difficult to do`、③「～するのが面倒だ」は`be bothered to do`、④「～する時間がある」は`have time to do`が適切な表現です。

◆補足：同じ意味で`have trouble doing`という表現も非常によく使われます。`difficulty`は数えられない名詞なので、`a`を付けたり複数形にしたりしないのが基本です。`have great difficulty doing`（～するのに大変苦労する）。

21.

解答 ①

【解説】

正解は①「その後、あとで」です。副詞の`afterward`は、ある出来事が起こった後の時点を指します。`Let's go to the library first, and have lunch afterward.`（まず図書館に行って、その後で昼食にしよう）。②「前方に」は`ahead`、③「どこでも」は`anywhere`、④「とにかく」は`anyway`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：イギリス英語では`afterwards`と`-s`を付けて使われることが一般的です。意味は`afterward`と全く同じです。`after`も「後で」という意味の副詞として使えますが、`afterward(s)`の方がよりフォーマルな響きがあります。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②の`habit`で、個人が定期的に、あるいは無意識のうちに行う「習慣」や「癖」を指します。

`Waking up early is a good habit.`（早起きは良い習慣だ）。他の選択肢を見てみましょう。①`hobby`は「趣味」、③`custom`は社会や文化に根付いた「風習、しきたり」で、個人的な`habit`とは区別されます。④`habitat`は「(動植物の) 生息地」という意味です。

◆補足：`have a habit of -ing`や`be in the habit of -ing`の形で「～する習慣がある」という表現がよく使われます。`He has a habit of biting his nails when he is nervous.`（彼には緊張すると爪を噛む癖がある）。`break a bad habit`で「悪い癖をやめる」となります。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の`opinion`で、「意見、考え、見解」を意味する名詞です。ある物事に対する個人の判断や考えを表します。`Everyone has a right to their own opinion.`（誰もが自分自身の意見を持つ権利がある）。他の選択肢は、①`onion`が「タマネギ」、②`option`が「選択肢」、④`opening`が「開店、開口部、空き」という意味です。

◆補足：`in my opinion`で「私の意見では」という、自分の考えを述べるときに便利な表現になります。`fact`（事実）と`opinion`（意見）を区別することは、論理的な思考において重要です。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④の`find out`で、「(調査などの結果) …ということがわかる、～を見つけ出す」という意味です。それまで知らなかった情報を、調べたり聞いたりして発見するニュアンスで使われます。`The police are trying to find out the truth.`（警察は真相を突き止めようとしている）。他の選択肢は、

①`point out`が「～を指摘する」、②`figure out`が考えて「～を理解する、解決する」、③`turn out`が「(結果的に) ～だと判明する」という意味で、それぞれ「わかる」のニュアンスが異なります。

◆補足：`find`（見つける）と`find out`（知る、わかる）の違いがポイントです。`I found my keys.`は「鍵を見つけた」（物理的発見）ですが、`I found out he was married.`は「彼が結婚していると知った」（情報的発見）となります。

25.

解答 ②

【解説】

正解は②の`weight`で、「重さ、体重」を意味する名詞です。`He is trying to control his weight.`（彼は体重をコントロールしようとしている）。他の選択肢は、①`wait`が「待つこと」で、`weight`と同音異義語です。③`height`は「高さ、身長」、④`width`は「幅」と、それぞれ異なる次元を表す単語です。

◆補足：`lose weight`で「体重を減らす、やせる」、`gain weight`で「体重が増える、太る」という決まった言い方になります。動詞形は`weigh`（～の重さがある、～の重さを量る）です。`How much do you weigh?`（体重はどのくらいですか？）。

26.

解答 ①

【解説】

正解は①の「間違った」です。`wrong`は、「正しい」を意味する`right`の対義語として、事実や基準、道徳などにおいて「正しくない」状態を表す、非常に基本的な形容詞です。「間違った答え」(the wrong answer)や「間違った道」(the wrong way)のように、正誤が明確な事柄に対して広く使われます。②「弱い」は`weak`、③「難しい」は`difficult`、④「退屈な」は`boring`が対応します。

◆補足：`wrong`は「間違った」という基本的な意味の他に、以下のような重要な使い方があります。不調を表す場合: "Something is wrong with my computer."（私のコンピューターはどこか調子が悪い。）不正を表す場合: "It is wrong to steal."（盗むことは不正だ。）相手を気遣う場合: What's wrong? は、相手の様子が普段と違う時に「どうしたの?」と心配して尋ねる決まり文句です。

27.

解答 ①

【解説】

正解は①の`discovery`で、「発見」を意味します。それまで知られていなかった物事、事実、場所などを初めて見つけ出すことを指します。`The discovery of the ancient ruins attracted many tourists.`（その古代遺跡の発見は多くの観光客を引きつけた）。他の選択肢は、②`recovery`が「回復」、③`delivery`が「配達」、④`misery`が「みじめさ、不幸」という意味です。

◆補足：`discovery`は動詞`discover`（～を発見する）の名詞形です。`make a discovery`で「発見をする」というコロケーションになります。`discover`（発見する）と`invent`（発明する）の違いを理解しておくことも重要です。

28.

解答 ②

【解説】

正解は②の『die』です。この単語は、人や動物が「死ぬ」という意味で使われるのが最も一般的ですが、植物が「枯れる」という意味でも使われます。生命活動を終える、という中心的な意味を捉えると分かりやすいですね。他の選択肢は、植物の状態変化に関連しますが、意味が異なります。①の

『dry』は「乾く」という意味です。水がなくなって乾くのは枯れる一因ですが、枯れるという生命活動の終わりそのものを指すわけではありません。③の『fall』は、葉や花が「落ちる」という動作を指します。④の『sleep』は「眠る」で、植物には通常使いません。したがって、生命活動を終えるという意味の『die』が最も適切です。

◆補足：『die』は動詞で、過去形・過去分詞は 'died' と規則的に変化します。一方、「死んでいる、枯れている」という「状態」を表すのは、形容詞の『dead』です。(例: a dead flower / 枯れた花)。この動詞と形容詞の品詞の違いは非常に重要なので、しっかり区別しましょう。死因を表す際は "die of ~" (病気など) や "die from ~" (怪我など) が使われます。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②の 'increase' で、「増える、増加する」という意味の動詞です。人口、価格、量、速度など、様々なものの数や程度が増すことを表します。'The world's population continues to increase.' (世界の人口は増加し続けている)。他の選択肢は、① 'decrease' が「減る、減少する」で 'increase' の対義語、③ 'include' が「～を含む」、④ 'release' が「～を解放する、発売する」という意味です。

◆補足：'increase' は動詞だけでなく、「増加」という意味の名詞としても使われます。名詞として使う場合、アクセントは前の 'in' に置かれることが多いです (動詞の場合は後ろの 'crease' にアクセント)。'There has been a significant increase in the number of tourists.' (観光客の数に著しい増加があった)。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②の 'become short of ~' で、「～が不足する、～が足りなくなる」という意味です。'be short of ~' で「～が不足している」という状態を、'become short of ~' や 'run short of ~' で「不足するようになる」という変化を表します。'We are becoming short of food and water.' (私たちは食料と水が不足し始めている)。他の選択肢は、① 'run out of ~' が「～を使い果たす」、③ 'make short of ~' が「～を軽視する」、④ 'fall short of ~' が「(期待・基準) に達しない」という意味です。

◆補足：'short' には「短い」の他に「不足して」という意味があります。'I'm short of money this month.' (今月はお金が足りない)。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～と連絡を取り合う」です。この熟語は、物理的に離れてしまった人との関係を維持するために、手紙や電話、メールなどで「連絡を続ける」ことを意味します。"touch" には「接触」という意味があるので、「接触を保ち続ける」という直訳から意味を連想すると覚えやすいかもしれません。卒業や引っ越し、転勤など、人と別れる際の挨拶としても非常によく使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる人間関係や行為を表す熟語です。①「～と仲良くやる」は 'get along with'。③「～に追いつく」は 'catch up with'。④「～に触れないようにする」は 'keep away from' や 'avoid touching' など表現できます。

◆補足：別れ際に "Let's keep in touch!" (連絡を取り合おうね!) と言うのは、定番のフレーズです。

『stay in touch with ～』も、ほぼ同じ意味で使うことができます。例文: "Even after she moved to America, we kept in touch with each other by email." (彼女がアメリカに引っ越した後も、私たちはメールでお互いに連絡を取り合った。)

32.

解答 ②

【解説】

正解は②「確かに、間違いなく」です。`for sure`は、何かが確実であることを強調する副詞句です。`I know for sure that he was there.` (彼がそこにいたことは、私は確かに知っている)。①「もちろん」は `of course`、③「例えば」は `for example`、④「実は」は `for real` や `in fact` がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`for sure`は `certainly` とほぼ同じ意味で、より口語的な表現です。会話の返答として `For sure!` と単独で使うと、「間違いなく!」「もちろん!」という強い同意を表します。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③の `character` で、「性格、特徴」や「(物語の) 登場人物」という二つの主要な意味を持つ名詞です。`She has a very strong character.` (彼女はとても強い性格の持ち主だ)。`He plays the main character in the movie.` (彼はその映画で主役を演じている)。他の選択肢は、① `career` が「経歴、職業」、② `carrier` が「運ぶ人、航空会社」、④ `carriage` が「馬車」という意味で、つづりが似ていますが意味は全く異なります。

◆補足：`character`には「文字」という意味もあります。例えば、`Chinese characters`は「漢字」を意味します。人の内面的な性質、物語の人物、そして文字と、多義的な単語ですが、どれも準2級レベルでは重要です。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③の`change one's mind`で、「考えを変える、決心を変える」という意味です。`one's`の部分には`my`, `your`, `his`などの所有格が入ります。一度決めたことや、持っていた意見を変更することを表します。`I was planning to go camping, but I changed my mind because of the weather.` (キャンプに行く計画だったが、天気のせいで考えを変えた)。他の選択肢は、①`make up one's mind`が「決心する」、②`lose one's mind`が「正気を失う」、④`speak one's mind`が「思っていることを率直に言う」という、それぞれ`mind`を使った重要な表現です。

◆補足：`change one's mind about ~`で「~についての考えを変える」となります。`Nothing will make me change my mind.` (何があっても私は決心を変えない)。

35.

解答 ②

【解説】

正解は②の『make sure』です。この熟語は、「~ということを確かめる、確認する」または「間違いなく~するように手配する、必ず~する」という、二つの重要な意味を持ちます。何かを忘れたり、間違えたりしないように、念のためにチェックする、という慎重なニュアンスがあります。日常生活から仕事まで、様々な場面で注意を促すために頻繁に使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる行為を表します。①の『look for』は「~を探す」。③の『think about』は「~について考える」。④の『try to』は「~しようと試みる」です。これらは「確認する」という行為とは明確に異なります。

◆補足：『make sure』は、"make sure of (名詞)" や "make sure (that) + 文" の形で使われることが非常に多いです。何かを依頼したり、指示したりする際に非常に便利な表現です。例文: "Please make sure that all the windows are closed before you leave." (出かける前に、すべての窓が閉まっていることを必ず確認してください。) "I called the hotel again to make sure of our reservation." (私は予約を確かめるために、再度ホテルに電話した。)

36.

解答 ③

【解説】

正解は③の`nature`です。この単語は大きく分けて二つの意味で使われます。一つは、山や川、森林、動植物など、人の手が加わっていないありのままの世界、つまり「自然、自然界」です。もう一つは、人や物がもともと持っている「性質、本質、性格」です。他の選択肢を見てみましょう。①`future`は「未来」、②`culture`は「文化」、④`creature`は「生き物、動物」を意味します。

◆補足：「自然」の意味での例文: `I love spending time in nature.` (私は自然の中で時間を過ごすのが大好きです)。「性質」の意味での例文: `It is human nature to want to be loved.` (愛されたいと願うのは人間の本性だ)。「mother nature」(母なる自然)、「by nature」(生まれつき)といった表現も重要です。

37.

解答 ③

【解説】

正解は③「ふるまう」です。動詞の`behave`は、特定の状況下で人がとる行動の様子を表します。特に、社会的に適切とされる「行儀よくする」という意味で使われることが多いです。`The children were told to behave themselves at the party.` (子供たちはパーティーで行儀よくするよう言われた)。
①「～を信じる」は`believe`、②「～に属する」は`belong`、④「呼吸する」は`breathe`です。

◆補足：名詞形は`behavior` (ふるまい、行動) です。`His behavior in class has improved.` (彼の授業中の態度は改善された)。「well-behaved」で「行儀の良い」という形容詞になります。

38.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を反射する、～を反映する」です。`reflect`は、主に二つの意味を持つ動詞です。一つは、鏡や水面が光や像を「～を反射する、映す」という意味です。もう一つは、意見や状況などが、ある事実や考えを「～を反映する、示す」という比喩的な意味です。`Her face was reflected in the mirror.` (彼女の顔が鏡に映っていた)。「The survey results reflect the opinions of the general public.» (その調査結果は一般大衆の意見を反映している)。
①「～を拒絶する」は`reject`、②「～を後悔する」は`regret`、④「～を安心させる」は`relieve`です。

◆補足：`reflect on ~`で「～についてじっくり考える、省察する」という重要な意味にもなります。`He reflected on his past mistakes.` (彼は過去の過ちについてじっくり考えた)。名詞形は`reflection` (反射、反映、熟考) です。

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の`recently`で、「最近、近頃」という意味の副詞です。現在からあまり遠くない過去のある時点を表し、過去形や現在完了形と共に使われることが多いです。`Have you seen any good movies recently?`（最近、何か良い映画を見ましたか?）。他の選択肢は、①`frequently`が「頻繁に」、③`currently`が「現在は、今のところ」、④`certainly`が「確かに、もちろん」という意味です。

◆補足：`recently`と似た言葉に`lately`があります。どちらも「最近」と訳せますが、`lately`は現在完了形と共に使われることが多く、`recently`は過去形とも現在完了形とも使えます。形容詞形は`recent`（最近の）で、`in recent years`（近年）という形でよく使われます。

40.

解答 ②

【解説】

正解は②「プロの、専門職の」です。形容詞の`professional`は、ある活動を趣味（`amateur`）としてではなく、生計を立てるための職業として行っていることを示します。また、専門的な知識や技術を必要とすることも意味します。`We need professional advice on this matter.`（我々はこの件に関して専門的な助言が必要だ）。①「個人的な」は`personal`、③「公共の」は`public`、④「保護する」は動詞なので、形容詞にするなら`protective`となります。

◆補足：`professional`は名詞として「専門家、プロ」という意味でも頻繁に使われます。`He is a true professional.`（彼は真のプロフェッショナルだ）。動詞形は`profess`（公言する）、関連名詞には`profession`（専門的職業）や`professor`（教授）などがあり、語彙を広げる上で重要です。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①「乗客」です。`passenger`は、バス、電車、飛行機、船などの公共交通機関に乗っている人のことで、運転手や乗組員（`crew`）は含まれません。`All passengers must fasten their seatbelts before takeoff.`（全ての乗客は離陸前にシートベルトを締めなければならない）。②「歩行者」は`pedestrian`、③「運転手」は`driver`、④「通行人」は`passerby`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`passenger`は動詞`pass`（通り過ぎる）に由来し、「乗り物に乗って場所を通り過ぎていく人」と考えると覚えやすいかもしれません。コロケーションとしては、`a passenger train`（旅客列車）や`a passenger seat`（（車の）助手席）などがあります。

42.

解答 ②

【解説】

正解は②の`playground`で、「遊び場、運動場」を意味します。`play`（遊ぶ）と`ground`（地面、場所）が組み合わさった単語で、子供たちが遊ぶためのブランコや滑り台などの遊具がある公園や、学校の校庭などを指します。`The hotel has a playground for children.`（そのホテルには子供向けの遊び場がある）。他の選択肢は、①`background`が「背景、経歴」、③`ground`が「地面、土地」、④`underground`が「地下（の）」という意味です。

◆補足：`playground`は、`school playground`（学校の運動場）や`a children's playground`（児童公園）のように、どのような場所かを示す語と組み合わせて使われることもあります。

43.

解答 ①

【解説】

正解は①の`announce`で、「～を公に発表する、知らせる」という意味の動詞です。新しい情報や決定事項などを、多くの人々に向けて公式に知らせることを表します。`The government will announce its new policy next week.`（政府は来週、新しい政策を発表する予定だ）。他の選択肢は、②`pronounce`が「～を発音する」、③`denounce`が「～を公然と非難する」、④`renounce`が「（権利など）を放棄する」という意味で、つづりは似ていますが意味は大きく異なります。

◆補足：名詞形は`announcement`（発表、告知）です。`make an announcement`で「発表を行う」というコロケーションになります。

44.

解答 ④

【解説】

正解は④の`marry`です。この動詞は、「～と結婚する」という意味を表します。法的に、また社会的に夫婦となる、という公式な行為を指します。重要なポイントは、`marry`は他動詞として使われるため、後ろに`with`などの前置詞を必要としないことです。`marry someone`で「誰々と結婚する」となります。他の選択肢は、結婚に至るまでの各ステップを表す動詞です。①の`date`は「～と付き合う、デートする」。②の`propose to`は「～に結婚を申し込む、プロポーズする」。③の`engage`は、`be engaged to`の形で「～と婚約している」という意味で使われます。これらの順序を理解しておくと、恋愛に関する物語などを読む際に役立ちます。

◆補足：結婚している状態を表す場合は、`be married to someone`（～と結婚している）という形を使います。動詞の`marry`（結婚するという行為）と、状態を表す`be married`の違いをしっかりと区別しましょう。例文: `Will you marry me?`（私と結婚してくれますか？）は、プロポーズの際の決まり文句です。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①「指導員、インストラクター」です。`instructor`は、スポーツや運転、語学など、特定の技能や知識を教える専門家を指す名詞です。日本語の「インストラクター」とほぼ同じ意味で使えます。`I hired a private ski instructor for my son.`（私は息子のために個人のスキー指導員を雇った）。②「発明家」は`inventor`、③「投資家」は`investor`、④「検査官」は`inspector`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`instructor`は動詞`instruct`（～を指示する、教える）から派生した言葉です。一般的な「先生」を指す`teacher`や、大学の「教授」を指す`professor`と比べ、`instructor`はより実技的な指導を行う人というニュアンスが強いのが特徴です。

46.

解答 ④

【解説】

正解は④「自信がある」です。`confident`は形容詞で、自分の能力や判断、あるいは物事がうまくいくことに対して、強い信頼や確信を抱いている状態を表します。`She felt confident about her performance in the interview.`（彼女は面接での出来に自信があった）。`be confident that ...`の形で「…ということを確信している」と表現することもできます。①「快適な」は`comfortable`、②「有能な」は`competent`や`capable`、③「一貫した」は`consistent`が適切な単語です。

◆補足：名詞形は`confidence`（自信、信頼）です。`He has a lot of confidence in his abilities.`（彼は自分の能力に大きな自信を持っている）。`self-confidence`で「自信」という意味になります。

47.

解答 ①

【解説】

正解は①の「楽しみのために、冗談で」です。この表現は、何かをする目的が、利益や義務、仕事のためではなく、純粹に「楽しみのため、遊びで」あることを示す際に使われます。また、本気ではなく「冗談で、からかい半分で」何かを言ったりしたりする、という意味でも使われます。文脈によってどちらの意味になるかを判断します。他の選択肢は、似たような単語を使いますが、品詞や意味が異なります。②「面白い人」は`a fun person`や`a funny person`。③「楽しい出来事」は`a fun event`。④「面白がって笑う」は`laugh for fun`となりますが、通常は`laugh at`などが使われます。『for fun』が目的を表す副詞句であることを理解しましょう。

◆補足：『for fun』と似た表現に『for pleasure』があります。どちらも「楽しみのために」と訳せますが、『for fun』の方がより気軽に活動的な遊びや冗談を指し、『for pleasure』は読書のような、より静かで個人的な楽しみを指す傾向があります。例文: "We sometimes play soccer on weekends, just for fun."（私たちは時々、週末にサッカーをします。ただ楽しむためにね。）"Don't take it seriously. I only said it for fun."（本気にしないでよ。冗談で言っただけだから。）

48.

解答 ②

【解説】

正解は②「(夢などが) 実現する」です。`come true`は、夢、願い、予測などが「本当になる、現実のものとなる」という意味の熟語です。`I hope all your dreams come true.` (あなたの夢がすべて実現することを願っています)。①「真実だとわかる」は`turn out to be true`、③「元気づく」は`cheer up`、④「偶然出会う」は`come across`がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`come`の活用は`come - came - come`なので、過去形は`came true`となります。`My dream finally came true.` (私の夢がついに実現した)。`A dream come true`は「実現した夢」という意味で、喜びを表す決まり文句です。

49.

解答 ④

【解説】

正解は④の`chase`で、「～を追いかける、追跡する」という意味の動詞です。`The police car was chasing a stolen vehicle.` (パトカーは盗難車を追いかけていた)。他の選択肢は、①`choose`が「～を選ぶ」、②`cheese`が「チーズ」、③`case`が「場合、事件」という意味です。

◆補足：`chase a dream`で「夢を追いかける」という比喩的な使い方もします。名詞としても「追跡」という意味があり、`a car chase` (カーチェイス) という言葉は日本語にもなっていますね。

50.

解答 ①

【解説】

正解は①の`amount`で、「量、額、総額」を意味します。特に、水や時間、お金といった、数えられない名詞の量や、お金の合計額を表すのに使われます。`He inherited a large amount of money.` (彼は多額のお金を相続した)。他の選択肢は、②`account`が「口座、説明」、③`count`が「数えること」や「伯爵」、④`mount`が動詞で「～に登る」という意味です。

◆補足：`an amount of ~`の形で「ある量の～」と表現します。`the total amount` (総額)。「数」を表す`number`との使い分けが重要です。`a large amount of information` (大量の情報)、`a large number of people` (多くの人々)。
